

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 薬学研究科 薬学専攻

1. 本専攻のカリキュラム・ポリシー④において「幅広い国際的情報収集力及び発信力等を養うため、「演習科目」及び「研究科目」並びに「専門科目」の中に英語系科目を配置する」ことを掲げるとともに、「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の資料2「薬学研究科薬学専攻博士課程修了認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）と教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）との相関図」において、当該カリキュラム・ポリシーに対応する授業科目として「医療薬学英語特論」、「薬学特別演習」及び「薬学課題研究」を示している。しかしながら、「薬学特別演習」のシラバスを確認する限り、授業概要や達成目標、授業内容において英語に関する内容や能力等についての記載はなく、本授業科目が英語系科目であるとは見受けられないことから、本科目がカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な授業内容となっているか疑義がある。このため、「薬学教育演習」と対応するカリキュラム・ポリシーとの整合性を示した上で、本科目が適切なカリキュラム・ポリシーに基づき配置されていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）…………… 3
2. 本専攻では、入学者選抜において社会人特別選抜枠を設けるとともに、教育課程においても社会人学生向け教育プログラムを配置するなど、社会人学生の入学が想定されている。しかしながら、専門科目に配置された科目のうち、「社会系薬学・倫理特論」及び「医療薬学英語特論」については、「面接授業と遠隔授業を併用したハイブリッド型（対面・同期オンライン）の授業方法」により実施することとなっているものの、これらの授業科目は「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の資料2 4「山陽小野田市立山口東京理科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程授業時間割」によると、平日日中に開講する予定となっていることから、「仕事に従事しながらの就学を希望している」社会人の事情を踏まえると、本専攻に入学した社会人が、支障が生じることなく教育課程を履修できるか疑義がある。このため、日中仕事に従事する社会人が本教育課程を適切に履修できる環境や授業体制が確保されていることについて具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること（是正事項）…………… 7
3. 調書番号14及び17の教員について、教員名簿と審査対象教員一覧で保有学位の表記が異なっており、同一の人物であると判断することができない。このため、同一の人物である場合には、関係する書類について適切に改めること。一方、異なる人物である場合には、関係する書類について適切に改めた上で、教員個人調書等の必要書類について改めて提出するとともに、再度それぞれの教員について教員資格審査を受審すること。（是正事項）…………… 9

4. 教員資格審査において、「不可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。（是正事項）…………… 11

5. 図書館に、令和4年改正前大学設置基準第38条第3項に定める専門的職員その他専任の教員が置かれていないことから、適切に改めること。（是正事項）…………… 14

(是正事項) 薬学研究科 薬学専攻

1. 本専攻のカリキュラム・ポリシー④において「幅広い国際的情報収集力及び発信力等を養うため、「演習科目」及び「研究科目」並びに「専門科目」の中に英語系科目を配置する」ことを掲げるとともに、「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の資料2「薬学研究科薬学専攻博士課程修了認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）と教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）との相関図」において、当該カリキュラム・ポリシーに対応する授業科目として「医療薬学英語特論」、「薬学特別演習」及び「薬学課題研究」を示している。しかしながら、「薬学特別演習」のシラバスを確認する限り、授業概要や達成目標、授業内容において英語に関する内容や能力等についての記載はなく、本授業科目が英語系科目であるとは見受けられないことから、本科目がカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な授業内容となっているか疑義がある。このため、「薬学教育演習」と対応するカリキュラム・ポリシーとの整合性を示した上で、本科目が適切なカリキュラム・ポリシーに基づき配置されていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

「薬学特別演習」がカリキュラム・ポリシーに基づいて適切に配置された英語系科目であることを明確に示すために、「薬学特別演習」にて取り組む英語に関する授業内容と身に付ける能力等を、シラバスの授業概要、達成目標及び授業内容に記載するとともに、「授業科目等の概要」と「設置の趣旨等を記載した書類」の該当部分に明記するように改めました。

(新旧対照表) シラバス (24 ページ)

新		旧	
授業科目名	薬学特別演習	授業科目名	薬学特別演習
授業概要	自発的な問題意識と研究意欲に基づいて、学生が専攻する専門領域に関連する研究課題を深く掘り下げ、周辺領域を含めた先行研究など高度な薬学の情報やデータを調査・分析して有意義な情報を導き出し、発表しディスカッションすることにより、新たな価値を生み出す資質を身に付ける。専門科目で学んだ専門知識や修得した専門技能、自発的な研究意欲に基づいて、研究分野や研究課題に関連する英語及び日本語の学術論文や課題研究の実験データについて、積極的に調査・解析・総括を行い、ゼミ形式で発表・ディスカッションを行う。本授業は面接授業により行う。なお、社会人教育プログラムでは、面接授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッド型(対面・同期オンライン)により実施する。	授業概要	自発的な問題意識と研究意欲に基づいて、学生が専攻する専門領域に関連する研究課題を深く掘り下げ、周辺領域を含めた先行研究など高度な薬学の情報やデータを調査・分析して有意義な情報を導き出し、発表しディスカッションすることにより、新たな価値を生み出す資質を身に付ける。専門科目で学んだ専門知識や修得した専門技能、自発的な研究意欲に基づいて、研究分野や研究課題に関連する文献や課題研究の実験データについて、積極的に調査・解析・総括を行い、ゼミ形式で発表・ディスカッションを行う。本授業は面接授業により行う。なお、社会人教育プログラムでは、面接授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッド型(対面・同期オンライン)により実施する。

達成目標	<p>目標A 自分の研究テーマや興味に沿って<u>英語及び日本語</u>の研究論文を適切に検索することができる。</p> <p>目標B <u>英語論文を適切に読む技術と能力を身に付け、英語の</u>学術論文を精読しその内容を正確に理解することができる。</p> <p>目標C <u>英語及び日本語</u>の学術論文のより深い理解に必要な関連論文を適切に検索することができる。</p> <p>目標D 学術論文について理解した内容をわかりやすく他者に発表・説明することができる。</p> <p>目標E 発表・説明に対する他者の意見や質問を適切に理解することができる。</p> <p>目標F 発表・説明に対する他者の質問に対して理論的に答えることができる。</p> <p>目標G 他者とともに積極的に討論を行うためのコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p>目標H 他者の発表内容に対して、批判的にコメントすることができる。</p>	達成目標	<p>目標A 自分の研究テーマや興味に沿って研究論文を適切に検索することができる。</p> <p>目標B 学術論文を精読しその内容を正確に理解することができる。</p> <p>目標C 学術論文のより深い理解に必要な関連論文を適切に検索することができる。</p> <p>目標D 学術論文について理解した内容をわかりやすく他者に発表・説明することができる。</p> <p>目標E 発表・説明に対する他者の意見や質問を適切に理解することができる。</p> <p>目標F 発表・説明に対する他者の質問に対して理論的に答えることができる。</p> <p>目標G 他者とともに積極的に討論を行うためのコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p>目標H 他者の発表内容に対して、批判的にコメントすることができる。</p>
授業計画	<p>上記の達成目標は、学生が4年間の薬学特別演習を通して身につける能力である。標準的なマイルストーンとして、次のとおり各年次における到達指標を提示する。</p> <p>① 1年次の到達指標 学生が自ら行動し、自らの研究課題についての調査及び情報収集力に関わる「目標A」と、<u>英語論文を適切に読む技術と能力を身に付け、英語の学術論文を精読しその内容を正確に理解する</u>「目標B」の達成目標を中心に修得する。</p> <p>② 2年次の到達指標 学生が自ら行動し、自らの研究課題に関連する<u>英語の学術論文を含む</u>幅広い情報収集力及び発表力に関わる「目標C」及び「目標D」の達成目標を中心に修得する。</p> <p>③ 3年次の到達指標 研究課題についての発信及び検証する力に関わる「目標E」及び「目標F」の達成目標を中心に修得する。</p> <p>④ 4年次の到達指標 研究課題についての責任感及び議論する力に関わる「目標G」及び「目標H」の達成目標を中心に修得する。</p>	授業計画	<p>上記の達成目標は、学生が4年間の薬学特別演習を通して身につける能力である。標準的なマイルストーンとして、次のとおり各年次における到達指標を提示する。</p> <p>① 1年次の到達指標 学生が自ら行動し、自らの研究課題についての調査及び情報収集力に関わる「目標A」<u>及び</u>「目標B」の達成目標を中心に修得する。</p> <p>② 2年次の到達指標 学生が自ら行動し、自らの研究課題に関連する幅広い情報収集力及び発表力に関わる「目標C」及び「目標D」の達成目標を中心に修得する。</p> <p>③ 3年次の到達指標 研究課題についての発信及び検証する力に関わる「目標E」及び「目標F」の達成目標を中心に修得する。</p> <p>④ 4年次の到達指標 研究課題についての責任感及び議論する力に関わる「目標G」及び「目標H」の達成目標を中心に修得する。</p>

(新旧対照表) 授業科目の概要 (別記様式第 2 号(その 3 の 1)) (基本計画書 10 ページ)

新		旧	
演習科目	薬学特別演習	演習科目	薬学特別演習
<p>自発的な問題意識と研究意欲に基づいて、学生が専攻する専門領域に関連する研究課題を深く掘り下げ、周辺領域を含めた先行研究など高度な薬学の情報やデータを調査・分析して有意義な情報を導き出し、発表しディスカッションすることにより、新たな価値を生み出す資質を身に付ける。専門科目で学んだ専門知識や修得した専門技能、自発的な研究意欲に基づいて、研究分野や研究課題に関する 英語及び日本語の学術論文 や課題研究の実験データについて、積極的に調査・解析・総括を行い、ゼミ形式で発表・ディスカッションを行う。</p>		<p>自発的な問題意識と研究意欲に基づいて、学生が専攻する専門領域に関連する研究課題を深く掘り下げ、周辺領域を含めた先行研究など高度な薬学の情報やデータを調査・分析して有意義な情報を導き出し、発表しディスカッションすることにより、新たな価値を生み出す資質を身に付ける。専門科目で学んだ専門知識や修得した専門技能、自発的な研究意欲に基づいて、研究分野や研究課題に関する 文献 や課題研究の実験データについて、積極的に調査・解析・総括を行い、ゼミ形式で発表・ディスカッションを行う。</p>	

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (24 ページ)

新	旧																																
<p>イ 演習科目 演習科目は、必修科目である「薬学特別演習」(4 単位) を 1 年次から 4 年次の 4 年間を通して履修する。学生は、自発的な研究意欲に基づいて自身の研究分野や研究課題に関連する 英語及び日本語の学術論文 や課題研究の実験データについて、積極的に調査・解析・総括を行い、ゼミ形式で発表・ディスカッションを行う。「薬学特別演習」の達成目標は表 4 のとおりである。</p> <p>表 4 薬学特別演習の達成目標</p> <table border="1"> <tr><td>目標 A</td><td>自分の研究テーマや興味に沿って 英語及び日本語 の学術論文を適切に検索することができる。</td></tr> <tr><td>目標 B</td><td>英語論文を適切に読む技術と能力を身に付け、英語 の学術論文を精読しその内容を正確に理解することができる。</td></tr> <tr><td>目標 C</td><td>英語及び日本語 の学術論文のより深い理解に必要な関連論文を適切に検索することができる。</td></tr> <tr><td>目標 D</td><td>学術論文について理解した内容をわかりやすく他者に発表・説明することができる。</td></tr> <tr><td>目標 E</td><td>発表・説明に対する他者の意見や質問を適切に理解することができる。</td></tr> <tr><td>目標 F</td><td>発表・説明に対する他者の質問に対して理論的に答えることができる。</td></tr> <tr><td>目標 G</td><td>他者とともに積極的に討論を行うためのコミュニケーション能力を身に付けている。</td></tr> <tr><td>目標 H</td><td>他者の発表内容に対して、批判的にコメントすることができる。</td></tr> </table> <p>表 4 の達成目標は、学生が 4 年間の薬学特別演習を通して身につける能力である。標準的なマイルストーンとして、次のとおり各年次における到達指標を提示する。</p> <p>① 1 年次の到達指標 学生が自ら行動し、自らの研究課題についての調査及び情報収集力に関わる「目標 A」と、英語論文を適切に読む技術</p>	目標 A	自分の研究テーマや興味に沿って 英語及び日本語 の学術論文を適切に検索することができる。	目標 B	英語論文を適切に読む技術と能力を身に付け 、 英語 の学術論文を精読しその内容を正確に理解することができる。	目標 C	英語及び日本語 の学術論文のより深い理解に必要な関連論文を適切に検索することができる。	目標 D	学術論文について理解した内容をわかりやすく他者に発表・説明することができる。	目標 E	発表・説明に対する他者の意見や質問を適切に理解することができる。	目標 F	発表・説明に対する他者の質問に対して理論的に答えることができる。	目標 G	他者とともに積極的に討論を行うためのコミュニケーション能力を身に付けている。	目標 H	他者の発表内容に対して、批判的にコメントすることができる。	<p>イ 演習科目 演習科目は、必修科目である「薬学特別演習」(4 単位) を 1 年次から 4 年次の 4 年間を通して履修する。学生は、自発的な研究意欲に基づいて自身の研究分野や研究課題に関連する 文献 や課題研究の実験データについて、積極的に調査・解析・総括を行い、ゼミ形式で発表・ディスカッションを行う。「薬学特別演習」の達成目標は表 4 のとおりである。</p> <p>表 4 薬学特別演習の達成目標</p> <table border="1"> <tr><td>目標 A</td><td>自分の研究テーマや興味に沿って研究論文を適切に検索することができる。</td></tr> <tr><td>目標 B</td><td>学術論文を精読しその内容を正確に理解することができる。</td></tr> <tr><td>目標 C</td><td>学術論文のより深い理解に必要な関連論文を適切に検索することができる。</td></tr> <tr><td>目標 D</td><td>学術論文について理解した内容をわかりやすく他者に発表・説明することができる。</td></tr> <tr><td>目標 E</td><td>発表・説明に対する他者の意見や質問を適切に理解することができる。</td></tr> <tr><td>目標 F</td><td>発表・説明に対する他者の質問に対して理論的に答えることができる。</td></tr> <tr><td>目標 G</td><td>他者とともに積極的に討論を行うためのコミュニケーション能力を身に付けている。</td></tr> <tr><td>目標 H</td><td>他者の発表内容に対して、批判的にコメントすることができる。</td></tr> </table> <p>表 4 の達成目標は、学生が 4 年間の薬学特別演習を通して身につける能力である。標準的なマイルストーンとして、次のとおり各年次における到達指標を提示する。</p> <p>① 1 年次の到達指標 学生が自ら行動し、自らの研究課題についての調査及び情報収集力に関わる「目標 A」及び「目標 B」の達成目標を中心に修得する。</p>	目標 A	自分の研究テーマや興味に沿って研究論文を適切に検索することができる。	目標 B	学術論文を精読しその内容を正確に理解することができる。	目標 C	学術論文のより深い理解に必要な関連論文を適切に検索することができる。	目標 D	学術論文について理解した内容をわかりやすく他者に発表・説明することができる。	目標 E	発表・説明に対する他者の意見や質問を適切に理解することができる。	目標 F	発表・説明に対する他者の質問に対して理論的に答えることができる。	目標 G	他者とともに積極的に討論を行うためのコミュニケーション能力を身に付けている。	目標 H	他者の発表内容に対して、批判的にコメントすることができる。
目標 A	自分の研究テーマや興味に沿って 英語及び日本語 の学術論文を適切に検索することができる。																																
目標 B	英語論文を適切に読む技術と能力を身に付け 、 英語 の学術論文を精読しその内容を正確に理解することができる。																																
目標 C	英語及び日本語 の学術論文のより深い理解に必要な関連論文を適切に検索することができる。																																
目標 D	学術論文について理解した内容をわかりやすく他者に発表・説明することができる。																																
目標 E	発表・説明に対する他者の意見や質問を適切に理解することができる。																																
目標 F	発表・説明に対する他者の質問に対して理論的に答えることができる。																																
目標 G	他者とともに積極的に討論を行うためのコミュニケーション能力を身に付けている。																																
目標 H	他者の発表内容に対して、批判的にコメントすることができる。																																
目標 A	自分の研究テーマや興味に沿って研究論文を適切に検索することができる。																																
目標 B	学術論文を精読しその内容を正確に理解することができる。																																
目標 C	学術論文のより深い理解に必要な関連論文を適切に検索することができる。																																
目標 D	学術論文について理解した内容をわかりやすく他者に発表・説明することができる。																																
目標 E	発表・説明に対する他者の意見や質問を適切に理解することができる。																																
目標 F	発表・説明に対する他者の質問に対して理論的に答えることができる。																																
目標 G	他者とともに積極的に討論を行うためのコミュニケーション能力を身に付けている。																																
目標 H	他者の発表内容に対して、批判的にコメントすることができる。																																

<p><u>と能力を身に付け、英語の学術論文を精読しその内容を正確に理解する</u>「目標B」の達成目標を中心に修得する。</p> <p>② 2年次の到達指標 学生が自ら行動し、自らの研究課題に関連する<u>英語の学術論文を含む</u>幅広い情報収集力及び発表力に関わる「目標C」及び「目標D」の達成目標を中心に修得する。</p> <p>③ 3年次の到達指標 研究課題についての発信及び検証する力に関わる「目標E」及び「目標F」の達成目標を中心に修得する。</p> <p>④ 4年次の到達指標 研究課題についての責任感及び議論する力に関わる「目標G」及び「目標H」の達成目標を中心に修得する。</p>	<p>② 2年次の到達指標 学生が自ら行動し、自らの研究課題に関連する幅広い情報収集力及び発表力に関わる「目標C」及び「目標D」の達成目標を中心に修得する。</p> <p>③ 3年次の到達指標 研究課題についての発信及び検証する力に関わる「目標E」及び「目標F」の達成目標を中心に修得する。</p> <p>④ 4年次の到達指標 研究課題についての責任感及び議論する力に関わる「目標G」及び「目標H」の達成目標を中心に修得する。</p>
---	--

(是正事項) 薬学研究科 薬学専攻

2. 本専攻では、入学者選抜において社会人特別選抜枠を設けるとともに、教育課程においても社会人学生向け教育プログラムを配置するなど、社会人学生の入学が想定されている。しかしながら、専門科目に配置された科目のうち、「社会系薬学・倫理特論」及び「医療薬学英語特論」については、「面接授業と遠隔授業を併用したハイブリッド型（対面・同期オンライン）の授業方法」により実施することとなっているものの、これらの授業科目は「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の資料24「山陽小野田市立山口東京理科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程授業時間割」によると、平日日中に開講する予定となっていることから、「仕事に従事しながらの就学を希望している」社会人の事情を踏まえると、本専攻に入学した社会人が、支障が生じることなく教育課程を履修できるか疑義がある。このため、日中仕事に従事する社会人が本教育課程を適切に履修できる環境や授業体制が確保されていることについて具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

専門科目の「社会系薬学・倫理特論」及び「医療薬学英語特論」については、平日日中に開講するとともに、土曜日に授業を行う集中講義として同時開講し、仕事に従事しながらの就学を希望する社会人に対し、平日日中に開講する授業の他に、集中講義で開講する授業のいずれかを選択して履修できるように改めました。

(新旧対照表) 資料24「山陽小野田市立山口東京理科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程授業時間割」（設置の趣旨等を記載した書類の資料96ページ）

新			旧		
○集中講義			○集中講義		
科目名	学期	担当	科目名	学期	担当
医療薬学英語特論	前期	百溪	薬学特別演習	通年	嶋本、稲見、牛島、緒方、小野、篠原、田中、細井、宮本、和田、有海、伊豫田、沖田、相良、立花、田所、武藤
社会系薬学・倫理特論	後期	百溪、西本、下川			
薬学特別演習	通年	嶋本、稲見、牛島、緒方、小野、篠原、田中、細井、宮本、和田、有海、伊豫田、沖田、相良、立花、田所、武藤	薬学課題研究	通年	嶋本、牛島、田中、細井、宮本、和田、伊豫田、相良
薬学課題研究	通年	嶋本、稲見、牛島、緒方、小野、篠原、田中、細井、宮本、和田、有海、伊豫田、沖田、相良、立花、田所、武藤			

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (31 ページ)

新	旧
<p>4. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件 (16) 多様なメディアを利用した授業方法(インターネットを活用した遠隔授業) (略)</p> <p>また、専門科目のうち「社会系薬学・倫理特論」と「医療薬学英語特論」については、双方向での対話等コミュニケーションを必要とすることから、面接授業と遠隔授業を併用したハイブリッド型(対面・同期オンライン)の授業方法により実施する。<u>「社会系薬学・倫理特論」と「医療薬学英語特論」は、平日に開講するとともに、土曜日に授業を行う集中講義も開講することにより、仕事に従事しながら就学を希望する社会人が本教育課程を適切に履修できる環境と授業体制を確保する。</u></p>	<p>4. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件 (16) 多様なメディアを利用した授業方法(インターネットを活用した遠隔授業) (略)</p> <p>また、専門科目のうち「社会系薬学・倫理特論」と「医療薬学英語特論」については、双方向での対話等コミュニケーションを必要とすることから、面接授業と遠隔授業を併用したハイブリッド型(対面・同期オンライン)の授業方法により実施する。</p>

(是正事項) 薬学研究科 薬学専攻

3. 調書番号 14 及び 17 の教員について、教員名簿と審査対象教員一覧で保有学位の表記が異なっており、同一の人物であると判断することができない。このため、同一の人物である場合には、関係する書類について適切に改めること。一方、異なる人物である場合には、関係する書類について適切に改めた上で、教員個人調書等の必要書類について改めて提出するとともに、再度それぞれの教員について教員資格審査を受審すること。

(対応)

調書番号 14 及び 17 の教員は、同一の人物になりますが、審査対象教員一覧に記載した保有学位に誤りがありました。教員名簿及び履歴書に記載しました正しい保有学位に合わせて、審査対象教員一覧の保有学位を修正いたしました。

(新旧対照表) 審査対象教員一覧 (2 ページ)

新						旧					
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名	年齢	保有学位	調書番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名	年齢	保有学位
14	専	教授	モモタニ コウ 百溪 江	56	Ph. D. in Physiology (米国)	14	専	教授	モモタニ コウ 百溪 江	56	博士(生理学)
②	専	准教授	アリウミ ヒデト 有海 秀人	49	博士(薬学)	17	専	准教授	アリウミ ヒデト 有海 秀人	49	博士(理学)

また、審査対象教員一覧に記載した担当授業科目に誤りがありました。教員名簿、教員個人調書及び専任教員一覧に記載した正しい担当授業科目に合わせて、審査対象教員一覧の授業科目を修正いたしました。

(新旧対照表) 審査対象教員一覧 (2 ページ)

新					旧				
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名	担当授業科目	調書番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名	担当授業科目
⑥	専	教授	アリウミ ヒデト 有海 秀人	薬学課題研究	17	専	准教授	アリウミ ヒデト 有海 秀人	山口県地域医療学特論
				薬学特別演習					実践臨床薬学特論・演習
				山口県地域医療学特論					
				実践臨床薬学特論・演習					

さらに、審査対象教員一覧に記載した担当授業科目に誤りがありました。設置の趣旨等に
記載した書類に記載した正しい担当授業科目に合わせて修正いたしました。

(新旧対照表) 審査対象教員一覧

新					旧				
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名	担当授業科目	調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名	担当授業科目
①	専	教授	イナミ ケイコ 稲見 圭子	薬学課題研究	2	専	教授	イナミ ケイコ 稲見 圭子	薬学特別演習
				薬学特別演習					有機化学系薬学特論
				有機化学系薬学特論					
②	専	教授	オガタ コウジ 緒方 浩二	薬学課題研究	5	専	教授	オガタ コウジ 緒方 浩二	薬学特別演習
				薬学特別演習					健康科学系薬学特論
				健康科学系薬学特論					医療データサイエンス 特論・演習
				医療データサイエンス 特論・演習					
③	専	教授	オノ ヒロシゲ 小野 浩重	薬学課題研究	6	専	教授	オノ ヒロシゲ 小野 浩重	薬学特別演習
				薬学特別演習					山口県地域医療学特論
				山口県地域医療学特論					臨床薬学系薬学特論
				臨床薬学系薬学特論					実践臨床薬学特論・演習
				実践臨床薬学特論・演習					
④	専	教授	シノハラ ヒサアキ 篠原 久明	薬学課題研究	7	専	教授	シノハラ ヒサアキ 篠原 久明	薬学特別演習
				薬学特別演習					生命科学系薬学特論
				生命科学系薬学特論					
⑤	専	教授	アリウミ ヒデト 有海 秀人	薬学課題研究	17	専	教授	アリウミ ヒデト 有海 秀人	山口県地域医療学特論
				薬学特別演習					実践臨床薬学特論・演習
				山口県地域医療学特論					
				実践臨床薬学特論・演習					

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名	担当授業科目
⑦	専	准教授	オキタ ナオユキ 沖田 直之	薬学課題研究
				薬学特別演習
				生命科学系薬学特論

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名	担当授業科目
⑧	専	准教授	タチバナ ケン 立花 研	薬学課題研究
				薬学特別演習
				健康科学系薬学特論

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名	担当授業科目
⑨	専	准教授	タドロロ タカシ 田所 高志	薬学課題研究
				薬学特別演習
				物理化学計薬学特論

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名	担当授業科目
⑩	専	准教授	ムトウ ジュンペイ 武藤 純平	薬学課題研究
				薬学特別演習
				物理化学計薬学特論

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名	担当授業科目
19	専	准教授	オキタ ナオユキ 沖田 直之	薬学特別演習
				生命科学系薬学特論

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名	担当授業科目
23	専	准教授	タチバナ ケン 立花 研	薬学特別演習
				健康科学系薬学特論

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名	担当授業科目
24	専	准教授	タドロロ タカシ 田所 高志	薬学特別演習
				物理化学計薬学特論

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名	担当授業科目
25	専	准教授	ムトウ ジュンペイ 武藤 純平	薬学特別演習
				物理化学計薬学特論

(是正事項) 薬学研究科 薬学専攻

4. 教員資格審査において、「不可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

(対応)

教員資格審査において、専門科目「社会系薬学・倫理特論」(オムニバス形式)の授業担当が「不可」となった専任教員(教授)の恵谷誠司に代わり、教育研究業績を改めて精査した結果、適任である専任教員(教授)の下川昌文を補充します。下川昌文は、当該科目の第7回目及び第8回目を行う医療経済学の授業内容を担当します。

本授業科目を担当する専任教員の下川昌文は、平成5(1993)年4月から令和2(2020)年3月まで27年間、厚生労働省(独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)、株式会社産業革新機構等への出向を含む)において、医薬品の流通、後発医薬品の承認・普及等を含む薬務行政や厚生労働行政の推進に必要な研究の企画立案、革新的医薬品開発のための投資事業等に携わりました。

また、下川昌弘は、平成29年8月、山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部薬学科の設置に際し、担当授業科目「医療経済学」の教育資格審査を受け、大学設置・学校法人審議会から「可」の判定結果を受けました。

医療経済学は、社会保障制度、薬剤経済等、厚生労働行政に深く関わる内容を扱う学問であり、厚生労働省での経験・知識を活かし、医薬品の市場の特徴・企業展開、後発医薬品の役割、オーファンドラッグ等の日本における医薬品開発の諸問題と政策について、背景も含めて解説し、現状と課題を認識するとともに、医療経済と社会保障を理解する教育を行います。

(新旧対照表) 授業科目の概要 (別記様式第2号(その3の1)) (基本計画書5ページ)

新		旧	
授業科目の名称	講義等の内容	授業科目の名称	講義等の内容
社会系薬学・倫理特論 (8コマ)	薬学・医学倫理分野において求められる考え方や薬学・医学系の基礎研究、臨床研究を行うために必要な研究倫理、薬学・医療問題を考えるために必要な経済学の知識について講義を行う。また、薬学・医学倫理に関する最近のトピックスを提示し、そのトピックスに関して小グループディスカッションやプレゼンテーションを行い、それらを通して薬学・医学倫理に対する理解を深める。 (オムニバス方式/全8回)	社会系薬学・倫理特論 (8コマ)	薬学・医学倫理分野において求められる考え方や薬学・医学系の基礎研究、臨床研究を行うために必要な研究倫理、薬学・医療問題を考えるために必要な経済学の知識について講義を行う。また、薬学・医学倫理に関する最近のトピックスを提示し、そのトピックスに関して小グループディスカッションやプレゼンテーションを行い、それらを通して薬学・医学倫理に対する理解を深める。 (オムニバス方式/全8回)

<p>(① 下川 昌文/2回) 医療経済学について講義を行う。</p> <p>(10 西本 新/3回) 終末期医療、脳死・臓器移植、基礎医学研究・創薬研究における医療薬学倫理について講義を行う。</p> <p>(14 百溪 江/3回) 医療薬学倫理総論、薬剤師が有しておくべき医療薬学倫理、先進医療と医療薬学倫理について講義を行う。</p>	<p>(4 惠谷 誠司/2回) 医療経済学について講義を行う。</p> <p>(10 西本 新/3回) 終末期医療、脳死・臓器移植、基礎医学研究・創薬研究における医療薬学倫理について講義を行う。</p> <p>(14 百溪 江/3回) 医療薬学倫理総論、薬剤師が有しておくべき医療薬学倫理、先進医療と医療薬学倫理について講義を行う。</p>
--	--

(新旧対照表) シラバス (2 ページ)

新		旧	
授業科目名	社会系薬学・倫理特論	授業科目名	社会系薬学・倫理特論
教員名	百溪 江、 下川 昌文 、西本 新	教員名	百溪 江、 惠谷 誠司 、西本 新
授業計画	授業内容	授業計画	授業内容
第7回	医療経済学 (1) : 医療と経済 (下川)	第7回	医療経済学 (1) : 医療と経済 (惠谷)
第8回	医療経済学 (2) : 社会保障としての医療経済 (下川)	第8回	医療経済学 (2) : 社会保障としての医療経済 (惠谷)

(新旧対照表) 資料2 4 「山陽小野田市立山口東京理科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程授業時間割」 (設置の趣旨等を記載した書類の資料 96 ページ)

新			旧		
曜日	区分	月	曜日	区分	月
7 (14:40~16:10) 8	前期	物理科学系薬学特論 宮本、和田、武藤、田所 ゼミ室 3	7 (14:40~16:10) 8	前期	物理科学系薬学特論 宮本、和田、武藤、田所 ゼミ室 3
	後期	社会系薬学・倫理特論 百溪、西本、 下川 ゼミ室 1		後期	社会系薬学・倫理特論 百溪、西本、 惠谷 ゼミ室 1

(是正事項) 薬学研究科 薬学専攻

5. 図書館に、令和4年改正前大学設置基準第38条第3項に定める専門的職員その他専任の教員が置かれていないことから、適切に改めること。

(対応)

本学の図書館では、司書の資格を有し、学術データベース・サービス、レファレンス・サービス、ILL (Inter Library Loan)、図書館利用教育等を担当する図書館専門職員4名(専任2名、兼任2名)、事務職員3名(専任1名、兼任2名)、図書館長である教員1名の合計8名を配置しておりますが、基本計画書の「教員以外の職員の概要」欄に、図書館専門職員の人数を事務職員の欄に記載しておりましたため、図書館専門職員の欄に記載するように修正いたしました。

また、設置の趣旨等を記載した書類の「10. 施設・設備等の整備計画」の「(2) 図書等の資料及び図書館の整備計画」に、本学の図書館に専門的職員を配置している旨を明確に記載いたしました。

(新旧対照表) 基本計画書 (別記様式第2号(その1の1)) (基本計画書1ページ)

新					旧					
教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
		人	人	人			人	人	人	人
	事務職員	46 (46)	8 (8)	54 (54)		事務職員	48 (48)	10 (10)	58 (58)	
	技術職員	2 (2)	0 (0)	2 (2)		技術職員	2 (2)	0 (0)	2 (2)	
	図書館専門職員	2 (2)	2 (2)	4 (4)		図書館専門職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	その他の職員	1 (1)	8 (8)	9 (9)		その他の職員	1 (1)	8 (8)	9 (9)	
計	51 (51)	18 (18)	69 (69)	計	51 (51)	18 (18)	69 (69)			

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (45ページ)

新	旧
<p>(2) 図書等の資料及び図書館の整備計画 本学の図書館は、図書館本館(約845㎡)及び図書館別館(約277㎡)の両館に、電子資料を含め図書約6.3万冊、学術雑誌2,590種、視聴覚資料509点を所蔵、閲覧席は258席を設置している。学術雑誌には「Nature」、「医中誌」、「MEDICAL ONLINE」をはじめ、薬学の教育研究に重要といえる雑誌を取り揃えている。 図書館には、オンライン蔵書検索のためのOPAC、論文・特許に加え世界中の化学物質及び有機化学反応情報を網羅的に検索できるSciFinder、学術研究サポート用のWebポータルサイトであるWeb of Science、利用者を適切な文献に誘導し入手可否を調査できる</p>	<p>(2) 図書等の資料及び図書館の整備計画 本学の図書館は、図書館本館(約845㎡)及び図書館別館(約277㎡)の両館に、電子資料を含め図書約6.3万冊、学術雑誌2,590種、視聴覚資料509点を所蔵、閲覧席は258席を設置している。学術雑誌には「Nature」、「医中誌」、「MEDICAL ONLINE」をはじめ、薬学の教育研究に重要といえる雑誌を取り揃えている。 図書館には、オンライン蔵書検索のためのOPAC、論文・特許に加え世界中の化学物質及び有機化学反応情報を網羅的に検索できるSciFinder、学術研究サポート用のWebポータルサイトであるWeb of Science、利用者を適切な文献に誘導し入手可否を調査できる</p>

SFXを導入している。また、学術書・専門書を中心とした電子ジャーナル約40種類に加え、化学系の電子ジャーナル約400種類が利用でき、NIIとの連携事業による文献複写や他大学の蔵書貸出もインターネットで申し込みできる。このほか、図書館本館及び図書館別館に学生の自学自習のためのパソコンを設置しているほか、無線LANによりノートパソコンを利用してネットワークに接続できる環境にある。図書館は、平日9:00～20:00、土曜日9:30～17:00まで開館するため、学生の教育研究及び図書館での勉学に支障はない。図書館の整備の方針として、特に薬学は学問の性格上、情報の速報性が重要であるので、電子ジャーナルの整備に力を入れている。

また、図書館には、その機能を十分に発揮するために、司書の資格を有し、学術データベース・サービス、レファレンス・サービス、ILL (Inter Library Loan)、図書館利用教育等を担当する専門的職員を4名配置するとともに、図書館事務職員3名、図書館長である教員1名による8名の職員を配置している。

なお、薬学研究科で新たに整備予定の学術雑誌は【資料25】のとおりである。

SFXを導入している。また、学術書・専門書を中心とした電子ジャーナル約40種類に加え、化学系の電子ジャーナル約400種類が利用でき、NIIとの連携事業による文献複写や他大学の蔵書貸出もインターネットで申し込みできる。このほか、図書館本館及び図書館別館に学生の自学自習のためのパソコンを設置しているほか、無線LANによりノートパソコンを利用してネットワークに接続できる環境にある。図書館は、平日9:00～20:00、土曜日9:30～17:00まで開館するため、学生の教育研究及び図書館での勉学に支障はない。図書館の整備の方針として、特に薬学は学問の性格上、情報の速報性が重要であるので、電子ジャーナルの整備に力を入れている。

なお、薬学研究科で新たに整備予定の学術雑誌は【資料25】のとおりである。